

Part 3

生成 AI のナレッジ共有と人財育成の取り組み

日立製作所のシステム開発における 生成 AI 活用 ～ GitHub Copilot 活用の取り組みを中心に ～

生成 AI を活用することで、システム開発の効率を飛躍的に向上させたい。2022 年 11 月の ChatGPT 登場以降、このように考える企業は増えているのではないのでしょうか。実際に開発現場で生成 AI の活用を成功させている事例が登場している一方で、具体的にどのように活用すればいいのかわからない、生成 AI を提供してもその活用がなかなか浸透しない、という問題に直面しているケースも少なくないようです。

本ホワイトペーパーでは、日立製作所（以下、日立）における GitHub Copilot の活用を中心に、システム開発現場での生成 AI 活用について、次の 3 つのパートに分けてご紹介します。

- Part 1 GitHub Copilot 導入の背景および社内検証
- Part 2 システム開発プロセスへの生成 AI 活用
～「日立アプリケーションフレームワーク Justware」との連携～
- Part 3 生成 AI のナレッジ共有と人財育成の取り組み
～「生成 AI 実務者コミュニティ」の活動を中心に～

CONTENTS

3-1 「生成 AI 実務者コミュニティ」立ち上げまでの背景と経緯	2
3-2 「生成 AI 実務者コミュニティ」の概要	3
3-3 「生成 AI 実務者コミュニティ」で重視していること	5
3-4 人財育成への取り組み	5
3-5 最後に	6

Part 3 生成 AI のナレッジ共有と人財育成の取り組み

Part 1、Part 2 でご紹介した取り組み以外にも、日立製作所 (以下、日立) ではさまざまな形で生成 AI 活用を進めています。日立が生成 AI 活用と合わせて重視しているのが、生成 AI に関するケーススタディなどの各種ナレッジをお客様やパートナーと共有することで、社会イノベーションを加速することです。

日立では、ユースケースやソリューション、プロダクトやサービス、さらにはシステムアーキテクチャをも含む各種ナレッジのことを「アセット」と呼んでいます。そしてこのアセットを共有し活用するために、2024 年 4 月に「生成 AI 実務者コミュニティ」も立ち上げています。

生成 AI に関するアセットをお客様に活用していただくには、それを支援できる人財の育成も欠かせません。日立とマイクロソフトは、2024 年 6 月に生成 AI 分野で戦略的パートナーシップを締結しました。このパートナーシップの中で、日立社内における生成 AI 人財の育成強化を掲げています。具体的には、高度な生成 AI スキルを持つ 5 万人以上の「GenAI Professional」を育成することを挙げており、その一環として、マイクロソフトが提供する研修を日立社内の育成プログラムに組み込むことが盛り込まれています。

本 Part 3 ではこのコミュニティの活動内容を軸に、アセットの共有と活用、人財育成への取り組みについてご紹介します。

3-1 「生成 AI 実務者コミュニティ」 立ち上げまでの背景と経緯

まず「生成 AI 実務者コミュニティ」を立ち上げるに至った背景と経緯について、簡単に振り返っておきます。

企業が DX を推進するにはさまざまな業務プロセスの変革が求められます。システム開発の現場でも改革が始まっており、従来の「外部委託を前提としたシステム開発」だけでなく、企業内で「内製化された開発」を検討する企業が増えてきています。このため、外部委託と内製の使い分けが重要になります。しかし日本国内では長年にわたって Sler への開発委託が行われてきた結果、内製化を進めるための開発プロセスの知見や、クラウドネイティブな開発技術に関して、企業内の人財だけではすぐに対応できない状況となっています。

その一方で IT 市場では、2030 年に最大 79 万人の IT 人財が不足すると予測されています。DX のために社外から人財を新規採用することも、今後は難しくなると考えられます。

このような状況の中で着実に内製化を進めるためには、これまで企業の IT システム構築を担ってきたベンダー企業も、新たな目線での支援を行うことが求められます。その中でも最も重要なのが、これまで蓄積されてきた「アセット」を共有し、有効活用しやすいソリューションの形で提供することだと、日立は考えています。

Part 3 生成 AI のナレッジ共有と人財育成の取り組み

そのために 2023 年 8 月には、「Lumada Solution Hub」で培ったアセット活用のノウハウをもとに、お客様のデジタル変革に伴走する「アセット活用開発支援ソリューション」の提供を開始。アセット活用に向けた構想策定コンサルティングや、自社アセットの蓄積・共有を可能にするしくみづくりの支援、システム内製化を加速するアセットベース開発（アセットを活用した開発）の支援、レガシーシステムのモダナイゼーションと人財育成の支援などを行っています。その中には「生成 AI ×アセット」による、ナレッジシェアのしくみづくり支援も含まれています。

このような取り組みを進める中、日立は 2024 年に「生成 AI に対して全社的な投資を行う」と発表。そのためには生成 AI に関するアセットの蓄積および共有をさらに加速するしくみが必要になると判断し、コミュニティ型の社内ナレッジ管理基盤「Knowledge Management Platform（以下、KMPF）」の運用を開始し、「生成 AI 実務者コミュニティ」を立ち上げることになったのです。

3-2 「生成 AI 実務者コミュニティ」の概要

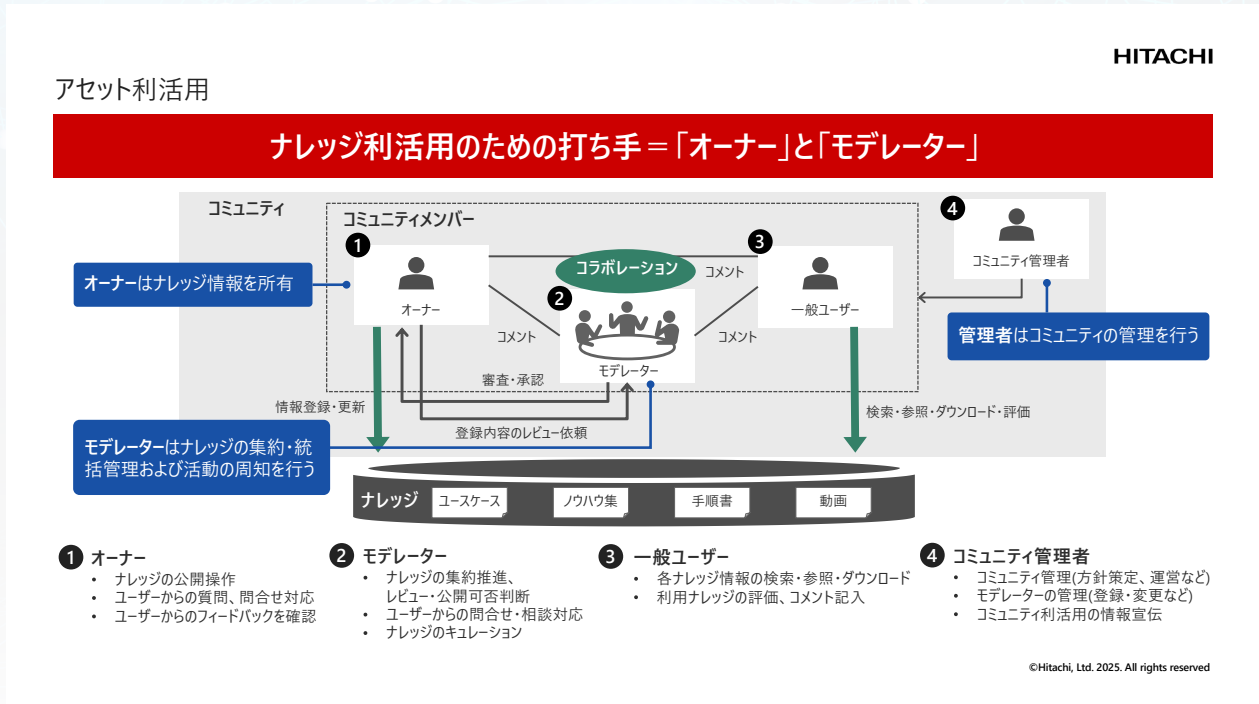
「生成 AI 実務者コミュニティ」は、日立で生成 AI 活用をリードする有識者達によって立ち上げられました。生成 AI の登場以前から AI 技術に精通し、社内外での AI 活用を牽引してきた専門家をはじめ、金融業界や OT 領域で生成 AI 活用を広げている社員や、生成 AI 活用推進に積極的な社員など、合計 5 名が管理者として参画しています。さらに、コミュニティ参加メンバーから投稿されたアセットを審査する 5 名のモデレーターも参画しており、コミュニティ運営を支える事務局も設置されています。

アセットの投稿はコミュニティ参加メンバー（一般ユーザー）であればだれでも行うことが可能です。投稿したアセットが承認かつ共有された場合には、そのアセットを投稿したメンバーは、そのアセットの「ナレッジオーナー」と呼ばれることになります。承認、共有されたアセットは定期的に最新の内容に更新する必要がありますが、更新作業はナレッジオーナーが行うことになっており、そのフォローアップは事務局が担当しています。

日立製作所のシステム開発における生成 AI 活用 ～ GitHub Copilot 活用の取り組みを中心に ～

Part 3 生成 AI のナレッジ共有と人材育成の取り組み

その全体像を示したのが下の図です。



モデレーターによって審査、承認されたアセットは、前述の KMPF で共有されます。これはコミュニティ単位でのナレッジシェアを行うためのシステムであり、アセットの登録、掲載、審査、利用などを行うための「ポータル機能」、登録されたアセットの利活用および品質向上をコミュニティメンバー間で促進するための「コミュニティ機能」、アセットやコミュニティの管理/統制に使用する「ガバナンス機能」を提供しています。

「生成 AI 実務者コミュニティ」における、2025 年 4 月時点でのナレッジ オーナー数は約 300 名。投稿されたユースケースなどは 1,000 件を超えていますが、それらを約 200 のアセットに体系化して掲載しています。

アクティブユーザー数は、2024 年 8 月には約 1,200 名でしたが、同年 12 月には 2,000 名、2025 年 3 月には 3,000 名を突破しました。また現在では日立社内だけではなく、グループ会社 23 社にも公開しており、コミュニティ参加メンバーは合計で約 15,000 名に上っています。

Part 3 生成 AI のナレッジ共有と人財育成の取り組み

3-3 「生成 AI 実務者コミュニティ」で重視していること

「生成 AI 実務者コミュニティ」は生成 AI に関するアセットを共有および活用することを目的としていますが、その成果を評価するための KPI も設定しています。ここで重視されているポイントが大きく 3 つあります。アセットがどれだけ「活用」されているか、アセットの共有/活用がどれだけ「定着化」しているか、そしてその活動がどれだけ「事業に貢献」しているかです。

最終的に重要なのは、アセットを積極的に活用し事業に貢献することですが、その鍵になるのが「定着化」だと考えています。定着化に関しては、各ユーザーの月間アクセス数や、各アセットの閲覧数、ダウンロード数といった KPI で評価しています。

これらの KPI を高めていくため、定着化に向けた取り組みもさまざまな形で実施しています。

まず新たなアセットが公開された場合には、その旨を伝達するメールを参加メンバーに送信。また参加メンバーの興味を惹くために、ナレッジオーナーへのインタビューや支社における取り組み紹介、おすすめコンテンツ紹介などの動画も制作。さらに 2024 年 11 月からは、社内 SNS として活用している Microsoft Viva Engage に対して社内で発信力のある社員に投稿してもらう、といったことも行っています。

「事業への貢献」に関しても、日立は具体的な評価モデルや KPI、計算式を独自に作成しており、これらに基づいた評価が行われています。既に「生成 AI 実務者コミュニティ」は目標 KPI をクリアしており、事業に対して十分な貢献を果たしていると評価されています。

3-4 人財育成への取り組み

生成 AI に関するアセットをお客様に活用していただくには、それを支援できる人財の育成も欠かせません。マイクロソフトと共同で行った前述のパートナーシップでも「デジタル人財育成の強化」を掲げており、そのための具体的な取り組みも進めています。

日立では多種多様な人財育成メニューを整備しています。その中で、生成 AI を活用したシステム開発の生産性向上につなげる主要な取り組みの 1 つとして、「GitHub と GitHub Copilot に関するトレーニングメニュー」を整備しました。

日立製作所のシステム開発における生成 AI 活用 ～ GitHub Copilot 活用の取り組みを中心に ～

Part 3 生成 AI のナレッジ共有と人材育成の取り組み

HITACHI

日立の GitHub 関連教育ラインアップ

効果的に使うためには、GitHubの機能や作法の理解が必要
日立は、トレーニングメニューの整備支援に加え、一部トレーニングの開催にも対応可能

★：資格試験対策講座

活用	GitHub Advanced コース	お客さまのご要望に応じたテーマ、内容で提供するコース	
	GitHub Actions Official Training	GitHub Action概要をはじめとし、ワークフロー構文、シークレット管理、ライナー、カスタムアクションの構築方法、ベストプラクティスなどのコンセプトを理解し、ワークフローの自動化を行えるようになることをめざす	
	GitHub Copilot Official Training	GitHub Copilot の概要と基本的な操作、より効率的にコードを書く方法、ユースケースの活用を学ぶ	GitHub Copilot ★ 認定資格「GitHub Copilot」の取得に必要な知識を学ぶ
	GitHub Developer Official Training	プロジェクトにGitHub Flowを適応する方法、効果的なコラボレーション手法を学ぶ	
基本知識	GitHub Introductions & GitHub Copilot	GitHubを使う際に知っておきたい基本知識やメリットを理解するとともに、GitHub Copilotの活用に向けて必要な基本知識・操作方法を学ぶ	GitHub Foundations ★ 認定資格「GitHub Foundations」の取得に必要な知識を学ぶ
	興味	日立的生成AI 取り組み紹介	生成AI時代に求められるエンジニアの役割とGitHub/GitHub Copilot活用のご紹介 日立の生成AIに対する取り組みや、GitHub/GitHub Copilotのガイダンス、グループ内の活用事例などを紹介

©Hitachi, Ltd. 2025. All rights reserved

トレーニングメニューは、GitHub や GitHub Copilot の初心者向けアプローチから、基礎知識の習得、活用・応用に至るまでのレベルごとに整備をしています。各レベルの習得に合わせて、GitHub 社が提供する GitHub の資格取得と連動することで、受講者のモチベーション向上や、資格取得による社内外への周知効果を考慮した設計を行いました。

このような人材育成への取り組みでも、マイクロソフトと GitHub 社の連携のもと、日立に合ったコンテンツを作成しています。その成果として 2024 年 10 月に立ち上げたトレーニングメニューを通じ、2025 年 3 月までの短期間で日立グループでの GitHub 資格取得者数は 100 名を超えています。

3-5 最後に

本ホワイトペーパーでは、日立におけるシステム開発への生成 AI 導入・活用・定着化に関する一連の取り組みをご紹介します。

取り組みにおいては、GitHub Copilot をはじめとする生成 AI ツールの導入・活用にあたり、マイクロソフトおよび GitHub 社との密な連携が大きな支えとなりました。両社の技術的な知見や柔軟な対応により、日立の現場に適した形での導入が可能となり、実運用における安心感にもつながっています。

今後は、生成 AI のエージェント化や適用領域の拡大が見込まれる中で、日立はこれからもマイクロソフトとの戦略的パートナーシップを深めながら、お客様の業務変革と価値創出を支援してまいります。

日立製作所のシステム開発における生成 AI 活用 ～ GitHub Copilot 活用の取り組みを中心に ～

Part 3 生成 AI のナレッジ共有と人材育成の取り組み

■ 監修



五十嵐 聡



溝江 彰人



斎藤 岳

日立製作所 アプリケーションサービス事業部 テクノロジートランスフォーメーション本部

生成AIシステムエンジニアリング部
部長・GenAIアンバサダー

LSH適用推進部
担当部長

LSH適用推進部
部長・GenAIアンバサダー

■ お問い合わせ

日本マイクロソフト株式会社

108-0075 東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー

株式会社日立製作所

「システム開発への生成 AI 適用支援サービス」サイト

<https://www.hitachi.co.jp/products/it/appsvdiv/service/genai/>

- ・ Microsoft、Azure、Azure OpenAI は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ GitHub、GitHub Copilot は、GitHub, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の登録商標または商標です。
- ・ 本ホワイトペーパーの内容は執筆当時 (2025 年 4 月) のものであり、変更が生じている可能性があることをご了承ください。
- ・ 本ホワイトペーパーは情報提供のみを目的としております。明示的または暗示的を問わず、本ドキュメントにいかなる保証を与えるものではありません。